

平成27年度 「こども未来会議室」 報告書

船橋市



もくじ

はじめに 1

概要 1

市民団体の紹介 4

提案と市の回答 5

提案 1 「子供から高齢者までみんなが安心して通れる道路にします！」	5
提案 2 「船橋市の魅力や特産物を全国にPRします！」	6
提案 3 「ごみを減らして街をきれいにします！」	7
提案 4 「みんなが安全で気軽に利用できる公園をつくります！」	7
提案 5 「バスを増便して交通の便をよくします！」	8
提案 6 「図書館での本の貸し出し・返却を便利にします！」	9
提案 7 「自習スペースを拡大し、ポスター等で周知します！」	9
提案 8 「児童ホームを中学生が利用しやすい環境にします！」	10
提案 9 「タブレット端末を学校図書室などに設置します！」	10
提案10 「姉妹都市の留学生と交流できるイベントを開催します！」	11
提案11 「不審者が多い地域の見回りパトロールを強化します！」	11
提案12 「犬猫の殺処分を減らすため、学校で飼います！」	11
提案13 「放置自転車が多いので、駐輪場をつくります！」	12
提案14 「カザグルマの保全活動を実施します！」	12
提案15 「市民の方々が交流できるイベントを増やします！」	13
提案16 「学校にある防災備蓄品を増やします！」	14

Check it out! 14

はじめに



昨年度に引き続き、平成 27 年度「こども未来会議室」を市内の中学 2 年生を対象として、夏休み期間中、全 5 回にわたり開催しました。各中学校の代表として参加した皆さんは、自分たちの提案で船橋のまちづくりに貢献できることを実感できたと思いますし、幅広い世代の市民の方々が一生懸命考えることで、船橋がもっと魅力的な街になるということを意識できたと思います。

皆さんの提案は、中学生ならではの発想のものから、現実をしっかりと見据えたものまで様々な提案があり、これからを担う若い人達が、真剣に自分の住むまちのことを考えてくれているとわかり、市民団体との連携も含め、本市のまちづくりにとって収穫の多い会議でした。

皆さんからいただいた素晴らしい提案については、昨年同様、市の将来に向けてどのようなことが実現できるのか、関係部局と協議を重ねてこの報告書を作成しましたので、中学生の皆さん、そしてお父さん、お母さんにも、ぜひ読んでいただきたいと思います。

中学生の皆さん素晴らしい提案をありがとう！

船橋市長 松戸 徹

概要

1 名称

「こども未来会議室 ～船橋の未来に“たね”をまこう～」

2 目的・運営

子供たちと市長が船橋の将来を語り合う場「こども未来会議室」を開催しました。これは、船橋市の現状を子供たちに伝え、まちづくりを意識してもらうとともに、将来を見据えた意見交換を行い、市政運営に子供たちの視点を活かしていくことを目的として開催したものです。市若手職員と市内の関係団体（さざんか募金運動推進協議会、船橋商工会議所青年部、船橋法人会青年部会、船橋青年会議所）による「こども未来会議室プロジェクトチーム」を立ち上げ、企画・運営をしました。

3 対象及び人数

対象：市内 28 中学校の 2 年生（市立 27 校、私立 1 校）

人数：各校原則 2 名

4 事前学習

「こども未来会議室」に参加する準備として、中学校では「事前学習」が行われました。この「事前学習」では、同会議室のテーマ



船橋中学校の事前学習の様子

【「私たちが市長になったら〇〇します！」～魅力あるまち船橋へ～】について2年生全員で話し合いが行われました。

全員が参加することによって、色々な意見が出ました。また、一人ひとりが船橋市民であることを自覚して、地域の発展にかかわる意欲を持ってもらうことができたと思います。

この「事前学習」でまとめられた提案は、「こども未来会議室」に参加する代表生徒に託され、市長にどのようにプレゼンテーションするか検討がされました。



御滝中学校の事前学習の様子

5 実施内容

・第1部 テーマに沿った意見発表 【第1会議室】

【「私たちが市長になったら〇〇します！」～魅力あるまち船橋へ～】というテーマについて、各学校で話し合った結果を代表生徒から直接市長に向けて発表がありました。それぞれの学校では、発表に工夫をこらし、プロジェクターを使用したり、分かりやすい資料をホワイトボードに貼ったりして、緊張しながらも、笑顔いっぱい元気な発表してくれました。

「暗い道や狭い道が多く、危ないと感じることがある」との提案が多く聞かれ、街灯の増設や電線の地中化、ガードレールの設置など具体的な提案や、「学校にルンバが欲しい!」、「ボール遊びができる公園がほしい!」といった中学生ならではのものまで、さまざまな提案が熱い気持ちとともに、市長に伝えられました。

市長は提案の一つひとつに対し、市の現状と今後の取り組みなどを丁寧に伝え、「今回出た全ての提案は実現可能か検討し、昨年度と同様に、可能なものは実現に向けて進めていきます。」と述べました。発表後は各学校から出た提案を振り返り、市民団体の方々と交えて「まちづくり」について活発な意見交換を行いました。

生徒が発表した提案と市の回答については、5ページ以降に記載しています。



市民団体の活動内容を説明



市政紹介の様子



プロジェクターを使用した意見発表

・第2部 市長室見学ツアー 【市長室】

最初に市長から各中学校の代表生徒の皆さんへ、市長室全体の案内と市長室でどのような仕事を行っているか、また、市のさまざまなことを決定する「決裁」に関する説明などがありました。

その後、一人ずつ順番に市長の椅子に座り、市長や「目利き番頭 船えもん」と一緒に記念写真を撮影しました。

代表生徒の皆さんは、市長の説明に熱心に耳を傾け、市職員でも滅多に入ることが出来ない市長室に興味津々の様子でした。



市長室見学ツアーの様子

6 開催日時及びブロック割

市域を北部、中部、東部、南部、西部の5ブロックに分け、市役所9階の第1会議室及び市長室で開催しました。

開催日	第1回（北部） 7月28日(火)	第2回（中部） 7月30日(木)	第3回（東部） 7月31日(金)	第4回（南部） 8月4日(火)	第5回（西部） 8月6日(木)
開催時間	13：30～16：30 場所：市役所9階 第1会議室				
参加校 28校	八木が谷中	御滝中	前原中(3)	船橋中	葛飾中
	古和釜中	高根中	二宮中	湊中	行田中
	坪井中	金杉台中	飯山満中	宮本中	法田中
	大穴中	芝山中	七林中	若松中	旭中
	豊富中	高根台中	三田中	海神中	【私立】(3) 千葉日大第一中
	小室中	習志野台中	三山中		
生徒数 58名 (男性15名 女性43名)	12	12	13	10	11



第1回開催 集合写真



第2回開催 集合写真



第3回開催 集合写真



第4回開催 集合写真



第5回開催 集合写真



プロジェクトメンバー 集合写真

市民団体の紹介

企画・運営から携わっていただいた市民団体を紹介します！

(1) さざんか募金運動推進協議会

さざんか募金運動推進協議会は、各種チャリティー事業を展開したり、「育てよう美しい心」をテーマに、青少年の健全育成を推進する公益信託制度「コミュニティ・ファンド（地域基金）＝さざんかさっちゃん教育基金」の事業も行っています。船橋駅コンコースのJR線と東武アーバンパークラインの間にシンボル像「さっちゃん像」があり、皆さんの「待ち合わせスポット」として、活用されています。ちなみに、この像は募金箱でもあります。



船橋市民のシンボル
「さざんかさっちゃん」

(2) 船橋商工会議所 青年部

船橋商工会議所青年部は、次世代の地域経済を担う後継者の相互研鑽（けんさん）の場として、また、青年経済人として資質向上と会員相互の交流を通じ、己（おのれ）の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的としています。



活動の中心は、あくまでも地域経済をリードする若き企業経営者の勉強の場であり、綱領・指針に則り、企業の発展と同時に、地域経済の発展を図る商工会議所活動の一翼を担うという理念のもとに活動しています。

(3) 船橋法人会 青年部会

会社を経営するには切っても切り離せないのが納税（税金）です。法人会というのは、全国に100万社の会員企業があり、「税」をキーワードに健全な会社経営、経営者育成を目指し、研修会や専門的勉強会、親睦会など各所管税務署や関係諸団体の協力を得て、様々な事業やイベントを開催しています。

その中でも、青年部会は50歳までの経営者や次世代の企業経営者になる若者に更なるステップアップや仲間を増やし、友情を育むことを目的に掲げて地域の発展と企業の繁栄を目指し、活動している団体です。



(4) 船橋青年会議所

青年会議所とは20歳から40歳までの青年が、明るい豊かな社会の実現を理想とし「修練」「奉仕」「友情」の三つの信条のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。世界125か国17万人を超える会員がいる国際的な組織でもあり、日本では全国47都道府県の698地域に、約36,000人の会員がいます。卒業したOBは世界で250万人以上、元アメリカ大統領のビル・クリントン氏やマイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏なども所属していました。日本では元内閣総理大臣の小泉純一郎氏、その息子の小泉進次郎氏なども現役で活動しています。

船橋青年会議所では次代の社会の担い手、推進力として明るい豊かなまちづくりの実現のために、市民運動の先頭に立って活動しています。



提案と市の回答

提案1 子供から高齢者までみんなが安心して通れる道路にします！

道路に関する提案は、昨年度もいただきました。船橋市内の道路って狭いところが多いですね。

道路が狭い大きな理由としては、「第2次世界大戦時にほとんど爆弾を落とされなかったために、昔のままの道が残ってその周りに家がたくさん建ち並び、道路がなかなか直せなくなってしまったこと。」、それと「毎年2万人ずつ人口が増加した昭和40年代に、学校等の施設整備が優先されたため、道路整備になかなかお金を使うことが出来なかったこと。」が挙げられます。

現在、少しずつではありますが、土地所有者の方々の協力を得て用地取得を行い、道路の拡幅整備を行っているところです。土地所有者の協力を得るためには、事業の必要性などを個別に説明・交渉していきます。そのため、道路が広くなるまでには、とても時間がかかりますので、危険な箇所については、少しでも安全が確保できるよう道路を整備していきます。

時間のかかる道路の拡幅にかわって、車のすれ違いが出来ない道路については、地域の方々全員の合意を得るのが非常に大変ですが、一方通行化を進めていきますし、さらに、生活道路における歩行者等の安全対策として、指定区域内での走行を時速30キロメートルに制限する「ゾーン30」の設置や自転車を安全で快適に利用できるよう自転車走行箇所をカラー舗装していきます。



松が丘地区の「ゾーン30」

昨年度同様、「夜、道路が暗いので明るくします！」との提案がありました。皆さんからの提案を受けて、平成27年度に「船橋市道路照明灯及び道路街路灯設置基準」を策定して通学路を中心に暗く危険と思われる箇所を抽出しました。現在、調査結果を基に設置工事を進めています。皆さんが通っている道路が明るくなるには時間がかかるかもしれませんが、平成28年度以降も優先順位の高い箇所から取り組んでいきます。



照明灯により明るくなった道路

昨年度、市内の歩道の実態調査を行い、その調査結果をもとにして「船橋市人にやさしい歩道整備計画」を策定しました。この計画に基づいて平成27年度から平成31年度までの5年間で完成することを目標に、歩道の段差や急な傾斜をなくしたり、歩道にある排水溝のフタの穴をなくすなど、バリアフリー化の工事を順次進めています。また、高齢者の方々がバスをより便利に利用できるように、計画に基づいて、バス停にベンチと上屋を整備していきます。バス停以外でも、市民の皆さんからの要望に基づいて、休憩のためのベンチを設置していますので、皆さんも気づいた箇所があったら連絡してください。



バリアフリー化された横断歩道

提案2 船橋市の魅力や特産物を全国にPRします！

自分の住んでいる街がテレビや新聞、雑誌などで紹介されると、誇りに思ったり、嬉しくなったりしますよね。市ではテレビ局などのメディアに向けて、積極的な情報発信や取材対応を行ってきました。その結果“ふなばしアンデルセン公園”が世界的な旅行サイトの「日本のテーマパーク第3位」に入ったことが大きな話題になったように、今“船橋市”が多くのテレビ番組に取り上げられています。このように、メディアに船橋を積極的にPRし、多くのメディアにニュースや記事として取り上げてもらうことで、船橋市のいろいろな魅力を日本全国に届けていきます。

また、船橋市の魅力をPRする30秒CM「ほっと一息、船橋」や観光PRドラマ「船橋市 特案係」を制作し、動画サイトや市ホームページなどで公開し、市内の観光スポットや地元産の美味しい農水産物なども紹介するなど、日本全国に、そして世界に向けても情報発信をしています。皆さんもぜひ、市と一緒に、地元“船橋”の魅力を発信してみてください。

外国人の方に“船橋”を説明するとき困ったことはないですか？

そんな時のために、市では地元“船橋”の魅力をコンパクトにまとめた「外国語版リーフレット」(11言語)を作成しています。美しい三番瀬の海、豊かな農産物や海産物、日本最大級のショッピングモール、四季を彩るイベント・伝統行事などを、豊富な写真とともに紹介しています。日本語も併記していますので、皆さんが海外旅行や外国の友人を迎える機会に、このリーフレットを利用してみてください。

全国の方に船橋の優れた特産品を知ってもらうため、春には東京スカイツリータウンで「にんじん」「小松菜」「枝豆」、夏には札幌ドームや有楽町駅前広場で「なし」のPRを行っています。この他にも、地産地消の推進などを目的とした「ふなばし朝市」や船橋ならではの優れた産品をブランド化する取り組み「ふなばしセレクション」で積極的にPRしています。平成28年5月には JR 東京駅前の商業施設「KITTE」に、船橋の特産品の販売やPRを行うアンテナショップを期間限定で設置したいと考えていますので、ぜひ立ち寄ってください。

また、皆さんから「“船橋の日”を制定して船橋の魅力を全国に発信する！」という提案がありました。確かに実現すれば、船橋の魅力発信や地元船橋への愛着を深める上で大きな効果が期待できますね。

例えば、平成29年度の市制80周年記念を契機として制定することが考えられますが、そのためには“船橋の日”を制定しようという機運の高まりが大切だと考えています。まずは、平成28年度中に、市全体としての意見を取りまとめていきます。その上で、制定しようという機運の高まりがあると考えられる場合は、検討委員会の立ち上げ等の取り組みを行っていきたいと思います。



観光スポットなどを紹介した
「外国語版リーフレット」



「ふなばし朝市」のポスター

提案3 ごみを減らして街をきれいにします！

皆さんから、「クリーン船橋530（ゴミゼロ）推進運動の回数を増やします！」という提案がありました。このような素晴らしい提案があり、非常にうれしく思っています。現在、参加者全員で市内全域を一斉清掃し、きれいな街にする活動が5月と11月の年2回実施されています。街に落ちているごみを一掃して住みよい街にするために、皆さんの参加をお願いしています。

この他にも、各地域では、地元の町会・自治会、商店会、ボランティアなどの方々が自主的に清掃活動を行っています。

市内一斉の清掃活動の回数を増やすのは難しいと思いますが、皆さんの学校で学生全員参加型の清掃活動などに取り組んでいくと、より住みよいまちづくりにつながると思います。

ごみに関する別の提案で「夜間収集地区のごみ出しが便利になるよう、週1回は朝にごみが出せるようにします！」という非常に建設的な提案がありました。夜間収集地区で昼間収集を行わない理由としては、日中は人通りや交通量が多いため、渋滞により収集が遅くまで終わらない地区が出てくるためです。

また、収集システムの変更は、新しく人材を確保するなど、費用の問題や収集システム全体の見直しなどの問題も出てきます。そして、1日だけ昼間収集を行うと地区毎によって曜日も異なり複雑です。曜日の間違いをする可能性が高まるとともに、市民の皆さんへのお知らせが難しいこともあります。

お仕事等により朝の方がごみを出しやすいという人がいるのも事実ですが、現状では夜間収集地区で昼間収集を行うことはできませんので、ごみ出しが便利になる他の方法がないか研究していきます。



クリーン船橋530（ゴミゼロ）
推進運動の様子

提案4 みんなが安全で気軽に利用できる公園をつくります！

昨年度同様、今年度も皆さんから、「ボール遊びができる公園をつくります！」という提案がありました。本来は、市民の皆さんが自由に利用できる公園なのですが、「ボールが飛び出し、家に当たった」、「幼児も利用するのに危ない」などの声が寄せられ、ボール遊び禁止の公園が時代とともに目立つようになってきました。市では皆さんからの提案を受けて、平成27年7月に「船橋市ボール遊びのできる公園検討委員会」を設置し、本市の現状について情報を共有したり、先進事例を紹介したり、試験的にボール遊びを実施する公園を選定したり、様々な検討を重ねてきました。

検討の結果、平成28年9月から11月にかけて公園の形、広さ、施設の状況等が異なる5つの公園（近隣公園：「田喜野井公園」「夏見台近隣公園」の2公園、街区公園：「大穴第2号公園」「西船みどり公園」「本町4丁目広場公園」の3公園）でボール遊びを試験的に実施することが決まりましたので、ぜひ参加してください。

実際に試してみることで、どのようなボール遊びができるか、どのようなルールが必要になるかが見えてくるとと思います。その後本格的な実施に向けて、どうすれば皆さんが自由に公園でボール遊びをすることができるのか検討します。



試行開始が決まった「田喜野井公園」

また、皆さんからは「新しい運動公園をつくります！」という提案もありました。

平成28年3月現在、運動公園のプール改修工事や三番瀬海浜公園のリニューアル工事、(仮称)大穴近隣公園の新規工事など、大きな事業が続いています。このような高額な費用のかかる事業は、市全体で場所の確保などを含めて、計画的に実施していく必要があります。(仮称)大穴近隣公園を新規に整備する中で、スポーツなど多目的に活用できる空間施設を検討していますので、公園ができたら活用してください。



(仮称)大穴近隣公園の整備イメージ

提案5 バスを増便して交通の便をよくします！

この提案は、北部地域中学校の皆さんから多く寄せられました。船橋市内のバスは、民間のバス会社が運行しています。バス会社では、バス路線ごとに利用するお客様の人数やお客が多くなる時間帯などにあわせて、バスの運行本数や運行時刻を決めています。現時点で、北部地域のバス路線は、優先的に運行本数の増便を検討していける状況ではないと聞いています。

市では、公共交通の不便な地域を解消するため、市民の方々・バス会社・市が三者で協働してバスを運行していく仕組みをつくって、路線バスとして運行が継続できるよう運行経費の50%を上限に補助金を交付しています。現在、この仕組みを利用して八木が谷・丸山・田喜野井の3地区でバスを運行しています。平成28年度には、新たに二和地区でも試験運行を予定しています。

今後も、この仕組みに基づいて補助金を交付するとともに、他の公共交通不便地域についても、市民の方々の要望により三者で協働して取り組みを進めていきたいと思えます。

「路面電車を走らせます！」という斬新な提案もありました。路面電車は地球環境にやさしい、バリアフリー化された車両の開発や、まちづくりの視点から、その必要性が見直されてきていますが、新たに運行するには、道路状況、今ある鉄道・バスや生活環境に対する影響について検討して、その街にあった交通手段であるかを考える必要があります。

船橋市は、鉄道やバスの路線が市内ほぼ全域に整備されていますので、全国的にみても公共交通網が非常に発達している都市であり、日頃の交通手段として鉄道やバスを多くの方が利用していますが、自動車の通行も多く、道路では渋滞の発生がみられる状況です。

そのような中で、船橋市内で路面電車を運行するには、路面電車が走行するのに必要な道路の幅がないこと、今ある電車やバスへの影響が大きいこと、更なる渋滞の発生のほか歩行者・自転車・自動車などの通行や沿道の生活環境に支障をきたすと思われることなど、多くの課題がありますので、路面電車の導入は難しいと思えます。



田喜野井地区の路線バス



路面電車のイメージ

提案6 図書館での本の貸し出し・返却を便利にします！

皆さんからは「図書館の開館時間を夜9時まで延長します！」「インターネットでの本の取り寄せや、貸し出し・返却が全公民館でできるようにします。」といった、利用者ならではの提案がありました。いつも図書館をご利用いただき、本当にありがとうございます。現在、市内図書館の一般閲覧室と参考図書室では、午後5時以降の夜間開館を実施していて、中央図書館は平日（火～金曜日）午後7時まで、東・西・北図書館では水・金曜日のみ午後7時まで開館しています。また、市内10カ所の公民館（高根台・薬円台・丸山・坪井・海神・小室・塚田・法典・西部・新高根）や三山市民センターの図書室、それと図書室ではありませんが、夏見公民館と東部公民館の図書貸出返却窓口は、図書館とオンラインで結ばれていて、図書館と同じように本の貸し出しや返却などができます。

皆さんからも提案があった、図書館を利用する方々の利便性をより向上させるため、ICタグを導入して図書の自動貸し出し・自動返却などを行えるようにします。さらに民間活力の活用による図書館サービスの向上を図るため、平成29年4月からの中央・東・北図書館への指定管理者制度※1導入に向けた準備を行います。

西図書館は、平成28年10月のリニューアルオープンに向けて建て替え工事を行っているところです。新西図書館では開館時間の延長や予約制の学習コーナー、インターネットコーナーの設置など、利用者の方々が使いやすい環境を整えますので、皆さんもぜひ利用してください。

※1 指定管理者制度とは、図書館や老人福祉センターといった市の施設の管理・運営を民間の事業者などに任せることで、民間のノウハウを活用することで、市民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的としています。船橋市では、平成17年度から順次導入され、平成27年10月1日現在で30の施設が指定管理者制度で運営されています。



平成28年10月にリニューアルする西図書館のイメージ図

提案7 自習スペースを拡大し、ポスター等で周知します！

昨年度同様、皆さんから「自習スペースをつくります！」という提案がありました。この提案を受け、平成27年度の新規事業として、夏休み期間中に公民館10館で2週間、集会室等を利用した子供の自習スペース提供事業を実施しました。

拡大については、現在建て替え中の西図書館に予約制の学習コーナー（35席）を設置し、多目的室（24席）においても講座・研修等での利用が無いときには、学習スペースとして利用できるようにする予定ですので、ぜひ利用してください。

今後は、中央図書館でも多目的室を設置して、学習スペースとしても提供できるよう検討していきます。

また、皆さんから「自習スペースの認知度が低いので、ポスター等で呼びかけます！」という提案も



中央公民館の自習スペースで勉強する子供たちの様子

ありました。自習スペース提供事業の周知は実施公民館管区内すべての小中学校の児童生徒にチラシを配付しましたが、説明が不十分だったようです。平成28年度の配付時には、担任の先生から内容を説明しながら配付してもらいます。また、各小中学校で発行している学校だよりなどへの掲載依頼や公共施設へのポスター掲示をすることにより、さらなる周知をしていきたいと思ひます。

提案8 児童ホームを中学生が利用しやすい環境にします！

平成24年度から宮本・薬円台児童ホームで『中高生の居場所づくり』を5月～7月の毎週土曜日午後5時15分～7時に開催してひて、平成27年度は、両児童ホーム併せて延べ391人が利用しました。この取り組みは、地域や学校の理解を得られた場所で開催してひます。今後も、中学生が利用しやすい環境を整えるため、試験的に開館時間を延長するための聞き取り調査を行って検討したいと考えてひます。

皆さんから「児童ホームに相談ルームをつくり、スクールカウンセラーを設置します。」という提案がありました。

現在、各中学校のスクールカウンセラーは、千葉県から週に1日派遣されています。各学校内での相談が多く、児童ホームへ出張する余裕がありません。児童ホームに相談ルームをつくることや、ソーシャルワーカー(※2)を配置するかどうかは、スクールカウンセラーとは別に考えなくてはならない事だと思ひます。児童ホームでは、来館する子供たちからのアイデアを活かして様々な事業を開催してひおり、その中に小学生と中学生が交流できるイベントもあります。今後もやってみたい企画など、皆さんからの意見を聞きながら、実現に向けて一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

※2 ソーシャルワーカーとは、生活する上で困っている人々や、生活に不安を抱えている人々、社会的に疎外されている人々に対して、関係を構築し、問題解決のための援助を提供する専門職の総称のことです。



「中高生タイム」でバスケットボールを楽しむ中学生

提案9 タブレット端末を学校図書室などに設置します！

現在、学校図書室には各校1～3台の検索用のデスクトップパソコンが設置されていて、いつでも最新情報が入手できる状況です。ただ、手軽に持ち運びができて簡単に操作できるタブレット端末の活用も大切だと考えてひます。そこで、平成27年度にICT(※3)機器活用推進校として指定した、坪井小学校と古和釜中学校に、タブレット端末を80台導入しました。

平成28年度は、中学2年生を対象に紙媒体の教科書をデジタル化し、映像等を盛り込んだデジタル教科書(※4)5教科と電子黒板を全市立中学校に導入し、ICT環境を整備してひきます。

※3 ICTとは、コンピューターやインターネットに関する情報通信技術の総称のことです。

※4 デジタル教科書とは、教科書をデジタル化し映像等を盛り込んだ教材のことです。



「デジタル教科書」と「電子黒板」を使った授業風景(古和釜中学校)

提案 10 姉妹都市の留学生と交流できるイベントを開催します！

船橋市では、姉妹都市であるアメリカ合衆国・ハイワード市及びデンマーク王国・オーデンセ市、友好都市である中華人民共和国・西安市と、これまでの交流の歩みを祝う機会として、5年ごとに記念事業を実施しています。その中では、それぞれの市へ市民団を派遣することもありますし、反対にそれぞれの市から市民団が船橋市を訪れることもあります。

オーデンセ市との姉妹都市提携25周年事業では、オーデンセ市から文化団として音楽学校の生徒さんをお招きし、大穴中学校と合同演奏会を行いました。

平成28年にはハイワード市との姉妹都市提携30周年を迎えますし、西安市からは教育友好使節団が船橋市を訪れる予定ですので、様々な交流事業を計画していくことになると思います。

今後、姉妹友好都市から市民団が船橋を訪れるときには、できるだけ多くの皆さんと交流できるよう、訪問する学校を増やしたり、交流の分野を広げたりさらに工夫していきたいと思います。



オーデンセ音楽学校
来船記念演奏会の様子

提案 11 不審者が多い地域の見回りパトロールを強化します！

不審者の情報があった場合には、定期的に市内を巡回している市民安全パトロールカー（青色回転灯装着車両）によって、当該地区を不審者情報地区として適宜パトロールを行っています。また、町会等で結成されているパトロール隊やスクールガードにより地域の見守りを実施していただき、防犯物資等の交付で支援しています。今後も、各防犯活動実施団体との情報共有や連携について検討を行い、更なる見守りを強化していきたいと思います。

昨年度、皆さんの先輩から「あいさつ運動を推進して犯罪を減らします！」という提案がありました。この提案を受け、あいさつ運動の周知及び子供に対する見守り活動を強化するために、船橋ひやりハッと防犯ネットワーク事業の更新及び防犯ネットワーク加盟団体への協力内容の追加などを検討しました。

平成28年度には、防犯ネットワーク事業の広報・防犯啓発用の車体ボディパネル等を一新し、防犯ネットワーク加盟団体の拡大及び見守り活動を強化していきます。



市民安全パトロールカーと防犯指導員

提案 12 犬猫の殺処分を減らすため、学校で飼います！

皆さんから「犬猫の殺処分を減らすため、学校で飼います！」という提案がありました。動物の事を考えた大変すばらしい提案だと思いますが、動物に対する考え方は一人ひとり様々です。本来の学校の目的とは違う犬猫の飼育を、学校職員や生徒全員の共通理解を得て行うことは難しいことだと思います。

動物を飼うためには、小屋の用意・掃除、餌代、餌やり、犬なら朝夕の散歩など様々な費用・労力・時

間がかかります。世話をするのは、その学校の先生や生徒の皆さんになりますし、休みの日も毎日学校に通って世話をしなければなりません。当番を決めるとしても、1年ごとに多くの人が入れ替わっていく学校で、継続してきちんと続けていけるか難しい面があり、学校で飼育していくことはできないと考えています。犬猫の殺処分数をゼロに近づけることは大切なことであり、市の目標でもあります。

「動物の愛護及び管理に関する法律」の改正によって、捨て猫などへの罰則が強化されたことから、市民の方々の間でも動物の終生飼養（一生面倒を見ること）や引き取り依頼の自制など、意識に少しずつ変化がでてきています。

動物愛護指導センターの犬・猫の引き取り数も毎年減少し、特に犬の殺処分については、ほぼゼロに近づいています。猫の殺処分数は減少傾向ですが、その大半が生後間もない子猫ですので、町会・自治会の取り組みや地域猫活動の支援、譲渡ボランティアの活用などの施策を進めるなど、新たに産まれる野良猫の数の抑制に努めています。加えて、猫の飼い主に対し、外飼いをやめることや不妊去勢手術を実施してもらうよう、猫のしつけ方教室等のイベントや広報などを通じて訴えています。



動物愛護指導センターで保護された離乳前の子猫

提案 13 放置自転車が多いので、駐輪場をつくります！

市では放置自転車等が大量に置かれやすい駅周辺の区域を、「自転車放置禁止区域」に指定しています。放置禁止区域に放置されている自転車などは、条例に基づいて計画的に撤去を行っていて、特に放置自転車等が多い船橋駅、西船橋駅、津田沼駅、北習志野駅の放置禁止区域では、撤去の回数を多くしています。

駐輪場を作る場所は、まず土地を探すことから始まります。駐輪場を作るには、駅の近くで、ある程度の広さが必要になるので、なかなか土地が見つかりません。仮に土地が見つかったとしても、駅の近くの土地なので、買うにしても借りるにしても多くの費用がかかります。

市では、今後の自転車対策を総合的にとらえた「船橋市自転車等の駐車対策に関する総合計画」を平成27年度に策定しました。

この計画の中で、地下に駐輪場を作ること、今ある駐輪場を2階建て以上にすること、鉄道の跡地を駐輪場として活用することなどを10年間で検討し、実施することにしています。



自転車がきれいに並べられている西船橋駅第8自転車等駐輪場

提案 14 カザグルマの保全活動を実施します！

皆さんから「“市の花” カザグルマの保全活動を実施します！」という提案がありました。カザグルマは、船橋市に自生している貴重種であり、市のシンボルとして大切に保護し、保存していくべき花であることから“市の花”に選ばれました。千葉県レッドデータブック(※5)では、カザグルマがBランクの「重要保護生物」となっていて、「生育環境を良好に維持することが望ましい。」「観賞用の採取・販売・栽培

をしないことが望ましい。」とされているため、保護対策にあたっては、専門家の意見を聴く必要があります。また、盗まれたりしないよう「どこで生育しているか」を秘密にする必要があります。

保全活動として、市内の保護に取り組む団体の方々が、切った枝を鉢に植えることで根が出る「挿し木」で増やしたり、アンデルセン公園に移植して育てたりしています。市の所有している土地でないところは、所有者の方からその土地を借りて保全活動を行っています。今後は、ふれあい花壇の参加団体の方々（公園を清掃してもらっている町会などの団体）にカザグルマの苗を配布し育ててもらふことなどを考えています。

また、「カザグルマが育つ街ふなばし」としてPRします！」という提案もありました。PR活動として、現在、各小中学校や保育園、出張所や公民館などにカザグルマの鉢を配布するなど、皆さんの目に触れるようにしていますが、今後も多くの方にカザグルマの存在を知ってもらえるよう、保護・保全とのバランスを図りながら、PR方法について検討していきます。



準絶滅危惧種に指定されている
市の花「カザグルマ」

※5 千葉県では、県内における絶滅のおそれのある野生動植物に関する生息状況や生物学的な特徴などをまとめた「千葉県レッドデータブック」と、該当する種を一覧にした「千葉県レッドリスト」を作成しています。

これらは法的規制等の強制力を伴うものではありませんが、多くの県民の方々に貴重な野生生物の現状を理解していただき、自然との共生のあり方を考えていただくことを目的として作成されているものです。

提案 15 市民の方々が交流できるイベントを増やします！

皆さんから「市民の方々が交流できるスポーツイベントを開催します！」や「中学校の文化部合同でイベントを行います！」など、交流イベントに関する提案がありました。実は、船橋市では毎年、市内全域を対象とした「スポーツの祭典」というスポーツイベントが開催されています。スポーツを通じて生き生きとしたふれあいの街づくりを目的としていて、主催団体は、船橋市スポーツ推進委員協議会と船橋市スポーツと健康を推進する会で構成する「スポーツの祭典実行委員会」です。



船橋市運動公園で開催された
「スポーツの祭典」の様子

イベントの内容は、ウォークラリーをはじめとして、インディアカ、ふわどっちなどのニュースポーツからけん玉、折り紙などの昔の遊びまで、幅広い種目を市民の方々に体験してもらいながら、スポーツやレクリエーションに親しんでいただく種目を企画していますので、ぜひ皆さんも参加してみてください。

「文化部合同のイベント」については、例えば音楽部や演劇部の公演となると、実施する場所が限られます。また、音楽部は夏の各種大会にむけてサマーコンサートを夏休み始めに実施していますが、演劇部は夏休みに入ってから練習も考慮して、7月末に発表会を実施しています。それぞれが実施したい時期も違うので、現状では同時開催は難しいと思います。

ただ、各学校の音楽部や演劇部で合同の発表会を行うことなどは、とても素晴らしいことだと思いますので、それぞれの部活動で相談してほしいと思います。

提案 16 学校にある防災備蓄品を増やします！

「災害時や緊急時には、中学生も支援活動を行います！」という昨年度の提案を受け、平成27年度の総合防災訓練（避難所運営訓練）では、中学生が参加できる訓練を実施しました！全市立中学校27校で、計534名もの中学生が訓練に参加し、町会・自治会等の地域住民の方々とともに、防災備蓄品の組立訓練等を行いました。

船橋市の学校にある防災備蓄品は、食料品や飲料水、生活必需品を3日分確保することを目標として整備しています。これらは、自分の身は自分で守る「自助」や地域住民が互いに助け合う「共助」による備蓄物資を補う目的で行われていて、各家庭や企業などにおいても同程度の量を備蓄するよう啓発しています。

また、船橋市の防災備蓄品は、食料品や飲料水及び生活必需品ではありません。例えば、けがをした方などを運ぶための車輪付き担架や、災害発生後ただちに応急医療活動が行えるよう、注射器や消毒用アルコールなどの応急医薬・医学セットも備蓄しています。その他にも、高齢者や障害者、乳幼児などの災害発生時に避難所で特に配慮が必要な方や女性など、避難者それぞれに配慮した備蓄を行っています。

今後も、各家庭や企業などに対して備蓄の啓発を進めていきます。また、皆さんから提案のあった、備蓄品の充実を図って、防災対策を強化していきます。



防災備蓄品のイメージ
(飲料水、非常食、救急医療品など)

Check it out!

・そのほかにも、平成26年度「こども未来会議室」で出された提案が、実現していますので紹介します。

【提案 プロの演奏家に接する機会を増やします！】

平成27年度の公演から高校生以下料金を1,000円に設定しました！さらに、平成28年1月16日に開催した「県民芸術劇場公演 ニューフィル千葉 ニューイヤーコンサート in 船橋」では、ゲネプロ（公演前の全体リハーサル）を見学する機会を設けました！



ゲネプロ見学の様子

【提案 あったかほっかほか船橋」プロジェクトを実施します！】

「あったかほっかほか船橋」プロジェクトの一環として「地域に飛び出せ！！ふなばし夏のボランティア体験」を平成27年度の夏休み期間中に開催しました！

<学生ボランティア受入協力団体・施設>

●市民活動団体：15団体 ●福祉施設等：15施設

<ボランティア体験状況>

- ・ボランティア体験者 202人
- ・団体、施設による受入延べ人数 408人
- ・団体、施設による受入延べ日数 173日



東邦大学 TOHO ボランティア部
小学生向け講座の先生役として



中学生の皆さん、素晴らしい提案を元気よく発表してくれて、本当にありがとうございました！

皆さんの提案を受けて、たくさんの発見がありました。

そして、一緒に船橋の未来を語り合うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

皆さんからいただいた提案をもとに、船橋市がさらにエネルギーな街になるよう、全力で取り組んでいきます！

「こども未来会議室」プロジェクトチーム

平成27年度「こども未来会議室」報告書

編 集：「こども未来会議室」プロジェクト

事 務 局：船橋市役所

市長公室 市民の声を聞く課

発行年月：平成28年3月
